

ほとけの 混和会だより

令和元年十月

東光院

仏の混和会

第143号



台風15号により
本堂裏山の枝折れる

この度の度重なる台風に際し檀信徒の皆様は於かれましては多大なる被害に見舞われたものと思われまします。謹みお見舞い申し上げます。又東光院に對しましても数々のお見舞いのお言葉を賜りましたこと心より感謝申し上げます。おかげ様で数本の倒木や、大きな枝が何本も折れ落ちてきました。奇跡的に建物に被害が及ばず、無事な難を免れる事が出来ました。これも御仏のご加護とありがたく感謝申し上げます。次第で御座います。昨今の異常気象により、世界の各地にて毎年の如く

大きな災害がもたらされるように成って参りました。これらは、地球の温暖化が大きく要因して居るように思われます。

【温暖化今すぐ対策を】



9月23日 国連本部にて
今すぐの活動家グレタ・トゥーンベリさんと
小泉進次郎環境相

自ら私はアスペルガーですと告白するグレタトゥーンベリさんは「生態系全体が破壊されている。私たちは大量絶滅の始まりにいる。それなのにあなたたちが話すのは、お金と永遠の経済成長というおとぎ話だけ」と訴えておられました。私達は生きることの価値観を大きく改めるせとぎわに居るように思われました。

あるがままに生きる



ねえねえ、お坊さん、あるがままに生きるって、どういうことですか



そうだね、今回はね相次ぐ自然災害の中で私達はどのような心構えで生きて良いのか、緊急課題として「あるがままに生きる」とテーマを掲げてみたのじゃよ。

そこで思いついたのが一八二八年新潟県の良寛さんが住んでいた地域にて起きた大地震のお話なんじゃよ。死者千五百人以上と言うから大変な地震だったと思うよ。良寛さんは何とか難を逃れたのじゃが、子供を亡くした友人にあてたお見舞いの手紙がすごいので紹介するね。それは、親族に死者はでず幸いでしたと綴った後に「災難に逢う時節には災難に逢うがよ候
死ぬ時節には死ぬがよ候
これはこれ災難をのがるる妙法にて候」などと受け入れたがたいお見舞いの言葉を送ったのじゃよ。
災難に逢うときは災難に遭い、死ぬときには死ぬしかない。私たちがどんなに手を

尽くしてもそれは変えられない、だとしたら、それらを受け入れて生きるしかないという意味の言葉なんじゃよ。
今まさに各地に於いて災難に見舞われているこの時期にこのようなお話しをするのは大変勇気のいる事で誤解を招く恐れもあるのじゃが、良寛さんの真意は、災難を乗り越えて力強く生きて行ってくれと友人を見舞われたのじゃよ。
どのような災難に逢おうとも、そのことを「災難」としてしか捉えることができないならば、どこまでもその不運を嘆いて生きて行くしか無いじゃろ。
だから良寛様は物事すべて否定的に生きるのでは無く肯定的に導きとして力強く受け止めて「あるがままに生きる」と励まされたのじゃよ。
良寛様もその友人も、共に心を許し信じ合っていたからこそその存在が救いと成って言えたすばらしい見舞いの言葉だったと思うのじゃよ。
良寛様の友人にとっても大きな救いとなったと思うよ。
そこで大きな救いと成るものが共に心を許し共に信じ合い、共に無事を喜び合える人々の存在かと思うのじゃよ。私もグレタさんと同じアスペルガーなんじゃ、だからコミュニケーションが大変苦手なんだけど共に心を許し共に信じ合える環境が築けるよう努めるよ。 亮観

日本の仏様

出張編



去る九月上旬、天台宗からの命により比叡山延暦寺・根本中堂にお勤めに行つて参りました。今回は出張編と題し、比叡山延暦寺根本中堂をご紹介します。

● 比叡山延暦寺・根本中堂

比叡山延暦寺は今から約千二百年前、伝教大師最澄様が開かれた京都府と滋賀県にまたがる天台宗の総本山です。

実はこの比叡山には「延暦寺」という建物は無く、山内にある約百五十有る堂・塔の総称として延暦寺と言ひ、その数あるお堂の総本山に当たるのが「根本中堂」になります。また、

長い歴史と特徴的な作りを評価され国宝にも指定されています。おりまです。



↑ 改修前の根本中堂と改修箇所
現在の根本中堂 ↓



根本中堂へお参りに訪れてみては如何でしょうか。
亮澄 拝

れたと伝えられております。そして本尊の前には比叡山の象徴ともいえる「不滅の法灯」が灯されております。こちら最澄様がお祀りした際に灯されてから千二百年間、消えること無く輝き続けている事から「不滅」と呼ばれております。これは、最澄様の願いが未来永劫消えて無くない様、毎日油をつぎ足し、最澄様の教えと共に護り続けて来た大切な法灯です。そんな根本中堂、現在お堂全てが屋根で覆われ、「平成の大改修」と銘打ち、平成二十八年から約十年の歳月をかけ、屋根の葺き替えや全体の漆の塗り直し等、大々的な改修工事が行われております。工事中ではありませんが、堂内へのお参りは出来るようにされており、更に初の試みとして修学ステージと呼ばれる、屋根の修復過程を間近で見学出来る場所も設けられております。もしよろしければ、普段とは違った根本中堂へお参りに訪れてみては如何でしょうか。
亮澄 拝

秋行ない彼岸法要を



去る九月二十三日、平成霊園ならびに東光院本堂におきまして秋期彼岸法要が行われました。

深大寺では彼岸の卒塔婆に「到彼岸菩提也」の文言をお入れしますが、そもそも彼岸とは、迷いの世界であるこちらの「此岸」から穏やかな悟りの境地である彼岸「彼岸」へ向かうために仏道精進をする日でありました。また、この時期は太陽が真西に沈むことから「西方に在す阿彌陀様の浄仏国土に想いを寄せ、亡くなられたご先祖様を供養する意味合いもござります。東光院では中日の午前中に霊園にて、午後より本堂にてお勤めを



行っております。今年は風の心配もありましたが、お参りにいらつしやうの方と共に手を合わせ、ご供養のひとつを過ぎました。

そばの花が咲きました



先日有志によつて種まきを行ったおそばですが、甚大であつた台風の猛威を免れ無事に成長しております。ここ数年は不作が続いておりましたので、元気にたくさんの実をつけてくれることを期待しております。

深大寺で大般若

十月十二日に深大寺におきまして大般若転読会が行われます。皆さんご存じの「般若心経」、本来は六百巻ある経典を集約したものであり、今回はこの六百巻の経本を転読という形でお読みしていきます。



亮澄 拝